

聖霊降臨後第10主日（特定14） 説教

「私たちを生かす真の生きた水」

〔旧約聖書〕	珥書 2:2~10
〔使徒書〕	ローマの信徒への手紙 9:1~5
〔福音書〕	マタイによる福音書 14:22~33



主の平和が皆さんと共にありますように。

長崎原爆から75年の日を迎えました。私は原爆の悲惨さ、そして戦争の悲惨さ、むごさを体験していませんので想像力を働かせるしかないのですが、1枚の写真をいつも手帳に挟んでいます。

「焼き場に立つ少年」という題がつけられています。教皇フランシスコが「戦争がもたらすもの」として紹介したことによりこの写真が多くの人に知られるようになり、私も知りました。少年が血がにじむほど唇を噛みしめて、長崎原爆で亡くなった弟を背負って焼き場で順番を待っているのです。

弟は眠っているように見えますが亡くなっている・・・

弟を突然失って、自身も被爆した少年はその後どうなったのだろうか、悲しみ、怒り、やり場のない感情を抱きながら、火葬を待つ少年。私はこれからもこの写真を大切にしていきたいと思っています。

私は長崎にはまだ行ったことがないのですが、広島平和記念礼拝に2回出席したことがあります。印象に残っていることはたくさんあるのですが、早朝に行われる宗派を超えた原爆犠牲者追悼集会の中で「献水（けんすい）」というのがありました。これは原爆の火の猛烈な熱さの中、多くの人が「水を下さい」と言って息絶えていったことを覚えての祈りの行為と伺い知ることが出来ました。

人は生きて行くために「水」が必要です。長崎原爆の日を覚えながら、「水」がわたしたちにもたらすものを聖書の御言葉から考えてみたいと思います。旧約聖書は、珥書が読まれました。神に背くニネベの人々へ神の警告を伝えるため使命を託されたヨナでしたが、その重荷に耐えられず彼はニネベ行きの舟に乗らずに反対方向へ向かう舟に乗り込みます。その舟が嵐に遭い、今にも転覆しそうになり、ヨナは嵐の原因は自分が神様から託された使命から逃げ出したことにあると思い、荒海に飛び込みます。そのことによって嵐は静まるのですが、ヨナは海の水の中で「死」を覚悟した時の思い、神への祈りが今日の旧約聖書の箇所です。水によってヨナは「死」へと向かっていきます。しかし、神様はヨナを魚の中

で保護し「命」を与えます。そして、ヨナは賛美の祈りを献げ、与えられた使命を果たすために改めてニネベへと向かうのです。

福音書では、先主日の福音書の続きです。5つのパンと2匹の魚の奇跡の物語の出来事の後、イエスは「それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸へ先に行かせ」（マタイ14:22）しました。

5つのパンと二匹の魚の奇跡に示された神の国（神様が支配する真の平和の状態）の完成に向けての動きは止まることがないので、5,000人が腹いっぱいになった満たされた状態に弟子たちはずっと留まることをさせずに、強制的に舟に乗せて、向こう岸に向かわせたのです。

その弟子たちが乗った舟が逆風の中にある時に、イエス様が湖の上を歩いて近づいて来られたのです。弟子のペトロがイエス様の「来なさい」（マタイ14:29）の呼びかけに応え、舟から湖上に下りて歩き出したのですが、強い風に気がついて怖くなり、沈み掛けます。そして「主よ、助けてください」と叫ぶと、イエスはすぐに手を差し伸べてペトロを助けます。この出来事の中にも水の中で「死」へと向かいそうになるペトロを再び「生」へと救い出すイエス様の姿を私たちは知ることが出来ます。

時、ペトロも水によって「死」を覚悟しました。しかし、二人とも神様、そしてイエス様によって「生」へと救い出されます。

私は、お恥ずかしい話ですが「かなづち」です。小学校の水泳の授業が実はあまり好きではありませんでした。泳げたらいいなと今でも思いますが・・・

ですから、水は正直怖いのです。もし、大型フェリーなどは大丈夫なのですが観光地にある遊覧船や手こぎボートなども実はとても怖いのです。もし風であおられて転覆したらどうしようと思います。

ヨナ、ペトロのおかれている状況にもし自分が置かれたらパニックになるだろうなと思います。東日本大震災の津波の写真、映像をみましたが、大波は真っ黒でした。多くの命を奪ったあの地震のときにたくさんの恵み（生）を与えてくれる海が「死」へ向かうものになりました。

原爆の熱さの中で「水をください」と叫びながら息絶えていった人々にとって「水」は命をかりうじてつなぐものでした。「水」はまさに「死」と「命」の両方に深く関与していると思いました。

イエス様が与える水は決して渴くことはありません。それにも関わらず私たちはそのイエス様が与えようとしてくださる「水」を拒否することが度々です。「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」（マタイ14:31）

とペトロに言ったイエスの言葉は私たちへの言葉でもあります。イエスが一緒に目指そうと呼びかけてくださっている神の国（真の平和）への招きに応えていくためには私たちはイエスが与えてくださる生きた水を飲まなければならないのです。繰り返しになりますが、水は私たちを生かし、また殺しもあります。

そのような人はなぜ生きるのか、なぜ苦しむのか、なぜ死ぬのかという私たちが抱く永遠の課題を考える時にイエスはすぐにはその応えを下さりません。その代わりに、手を差し伸べて、一緒に悩み、歩んで下さいます。なぜなら一緒に神の国を目指そうと呼びかけて下さるからです。

どうぞ、私たちを生かすイエスの与えてくださる命の水である御言葉をいつも心に歩んで参りましょう。

